

- **日印間の経済安保分野での協力の推進**に向け、JETRO、CII、JCCIIは、**ジョイント・アクションプラン**を作成。
- 同アクションプランでは、脆弱性分析（※次頁）や日印双方の強みなどを踏まえて、①日印経済安保協力の**ナラティブ**を新たに提示するとともに、②日印安保協力の**プライオリティ物資・技術の特定**と、③**日印官民の具体的ジョイント・アクション**を提案。
- 今後の日印経済安保協力の**土台**となり、政策対話や官民会合などでの議論の加速と、個別プロジェクトの実行を期待。

ジョイント・アクションプランのポイント

日印経済安保協力のナラティブ

- 日印は、経済安保分野で**戦略的相互補完の関係**。
- 日本企業は一部の**戦略製品等（半導体、太陽光、蓄電池、医薬品など）**において、国内の生産能力が縮小しつつある。しかし、これらは**本来日本の優位性が高かった技術・製品**である。そのため、これらの**インドでの生産**を進め、同国のスケールメリットを最大限活用することで、**生産能力を再構築・拡大**し、両国の経済安全保障強化につなげる可能性。
- 加えて、**生成AI**、再エネ、ヘルスケアなどの新興技術領域において、インド企業・大学・研究機関と連携した**知見の共有、大規模実証、量産化・低コスト化に係る研究開発などのイノベーション協力拡大**の可能性。
- 上記実現のためには、日印官民で計画や戦略などを共有し、政策協調を図り、ジョイント・アクションを実行していくことが必要。



豊富な高度人材と
スケールメリット



技術力と生産能力

日印官民のジョイント・アクション

- 日印官民で計画や戦略などを共有し、個別プロジェクトを実行していく。

8つの重点物資・技術

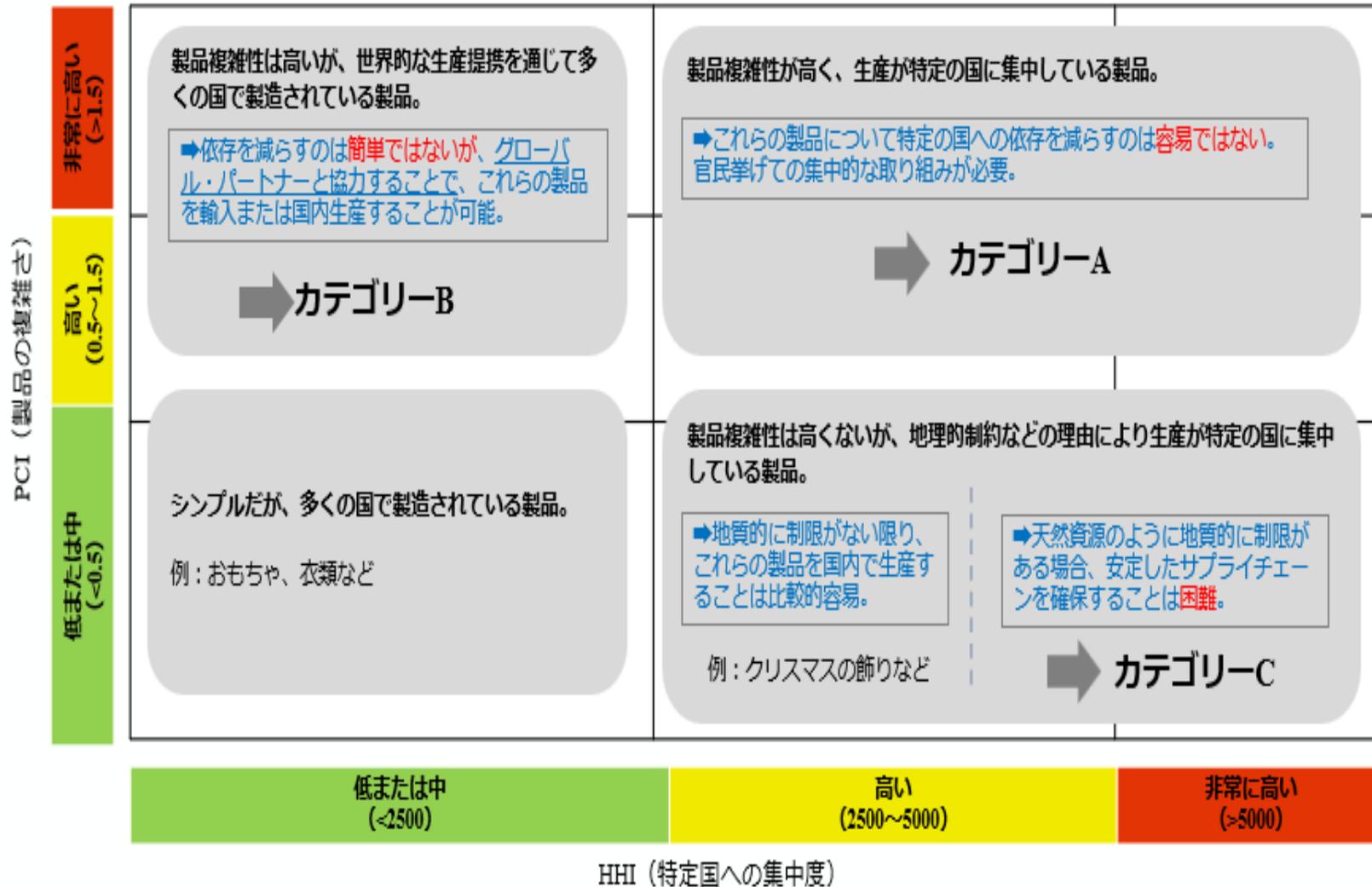
デジタル・電気電子	エネルギー・鉱物資源	バイオ・ヘルスケア	産業基盤技術
① 生成AI ② 半導体 ③ フラットパネルディスプレイ	④ 太陽光発電 ⑤ 蓄電池	⑥ 医薬品	⑦ 永久磁石 ⑧ コンプレッサー

※加えて、上記を支える重要鉱物についても協力を深める必要。

- **重点分野への投資拡大**
 - 日印政府の政策協調（補助金やその他必要な措置を通じて、） など
- **技術・イノベーション協力の拡大**
 - GCC（対インドR&D投資、開発拠点）の拡大
 - 知的財産保護・技術流出防止 など
- **人材協力の拡大**
 - 民間・大学・研究機関間の人材交流の促進 など

(参考) 脆弱性分析 (HHI-PCIマトリックス)

- 製品複雑性が高くて（高PCI）、比較的多くの国で生産されている製品（低～中HHI）は、国際協力で特定国への依存を減らし、リスク低減が可能。
- 一方、製品複雑性が高く（高PCI）、生産が特定の国に集中する製品（高HHI）は、依存低減が難しく、官民の集中的な取組が必要。



カテゴリーA (特定国への依存度が高く、複雑な財)

→ ディ스플레이、太陽光パネル、リチウムイオン電池、磁石、製薬、有機化学品など
 ※上記は、かつて日本が世界的に生産をリードしていたものであり、インドでの生産を通じて、特定国への依存度低減を図ることが可能。

カテゴリーB (複雑だが、比較的多くの国において製造されている財)

→ 半導体、コンデンサ、シリコンインゴット、鉄/アルミニウム、機械部品、コンプレッサー、モーターなど
 ※日印含めて、同志国間での国際連携を通じて、特定国への依存度低減が可能。

カテゴリーC (単純だが、地質的要因から特定国への依存度が高い財)

→ 重要鉱物
 ※アフリカや南米など、資源国との連携が不可欠。

※HHI：ハーフンダー・ハーシューマン指標
 ※PCI：Product Complexity Index (製品複雑性指標)